



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2024年04月15日 第1163号「週刊五十嵐レポート」

繁盛店の閉店

近隣の食事処が閉店になった。ほぼ毎日満席状態で予約にしないと入れないほど繁盛していた。それが高齢な親父さんが倒れてしばらく休業していたが、突然閉店のお知らせが伝わってきた。息子も娘さんも一緒に働いていたが、親父さんは厨房で料理を作り、息子・娘さんはフロアだった。料理を作っていたのは親父さん。息子・娘さんも厨房には立っていなかった。料理の継承ができていなかった。40年の幕を閉じた。

3月31日付日経新聞、「休廃業5万社進む淘汰」という記事。

2023年に約5万社が休業・廃業・解散を決めた。2013年以降では最多。産業別では飲食業やホテルなどサービス業が16,626社と全体の33%を占めた。休廃業の代表者の年齢別では70代が全体の4割強にのぼる。

4月9日付日経新聞、「倒産増、平時へ新陳代謝」という記事。

2023年度の倒産件数が9年ぶりに9千件を超えた。24年度は1万件を超えるという予測もある。業績が悪化した企業が市場から退出する一方で、新興企業の事業拡大が続いている。倒産・廃業した企業の代わりに生産性や利益性の高いビジネスが生まれ、経済の活性化につながっている、と。

近隣の飲食店の閉店(廃業)から学ぶことは、事業の継承が行われていなかったこと。具体的には料理のできる人材を育成していなかった。小さな会社ではほぼ100%社長で会社が回っている。社長が万一な時は仕事が止まることが多い。最悪、倒産である。戦略の部分とはかく、戦術(現場)の部分に従業員だけで回せることができるのか、という問いにどう応えるか。社長が一二週間海外旅行しても仕事が回るか。そのためには何を必要があるのか。大企業では当たり前の「業務規則集」「業務手順書」なるものが小さな会社には「無い」。それでいて小さな会社の社長は、「社員がなかなか動いてくれない」という。

近隣の閉店のお話を聞いたある社長は、「自分が不在でも当面会社が回る組織づくり、戦術活動の委譲が必要であると痛感した」。

新しい飲食店の出現を楽しみにしたい。

ちょっと
気になる出来事

4月8日付朝日新聞、「麻雀 子どもに人気浸透」という記事。

麻雀のイメージが変わりつつある。幼い子どもたちの間でも「頭脳スポーツ」として人気が広まり、子ども向けの教室はほぼ満杯。

ゲームや麻雀を題材にした漫画やアニメを通じ、麻雀に親しんだ。「頭脳スポーツ」として子どもたちの間で人気を広まった。小学生と80代、90代が麻雀を通じてあつという間に仲良くなるケースがよくある。

ほどよい距離感でつながれるコミュニケーションツールとして、世代を問わない趣味や頭脳スポーツとして楽しむ人が増えている。

相手の状況を見て考え、自分の行動を決めていくのは、生きる力にもつながる。ある小学6年生は、「役やルールを調べたり教わったりするうちにどんどん楽しくなった」。

中国語の勉強のため、「中国ドラマ」を観ると、家族や近隣と麻雀をやっている風景をよく見る。中国では正月に帰省すると家で麻雀をすると聞いたことがある。

麻雀も将棋や囲碁と同じになると面白い。なるほど「頭脳スポーツ」ね。



一口メモ
知識

改革の時期を探る

革(かく)は、巳日(いじつ)にしてすなわち孚(まこと)とせらる。(沢火革たくかかく)

沢火革(たくかかく)の「革」は変革・改革・革命。

「巳日(いじつ)」とは半ばを過ぎた頃をいう。

改革・変革をするには、古い体制による弊害が及び、その盛りが過ぎた頃の適切な時期に行うのがよい。それならば人々の信任が得られる。

先見の明があれば、早い段階から改革の必要性を察するが、かといって弊害が及ぶ前にと焦っても、時が至らなければ改革は成り立たないものである。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

